

## パートナーとの死別で心臓血管病リスクが上昇

パートナーが死亡した直後は、心臓血管イベントのリスクが上昇すると報告されている。しかしながら、そのリスクは定量化されておらず、また、大規模な研究もほとんどない。そこで本研究では、英国の大規模データベースを用い、パートナーとの死別が高齢者の心臓血管イベントに及ぼす影響について評価した。

2005年から2012年に英国のプライマリーケアデータベースに登録された一般診療施設401カ所のデータを用い、マッチドコホート研究を実施した。研究開始時の年齢が60～89歳で、パートナーと死別した30,447人を死別群とし、この死別群と年齢、性別、登録施設を一致させ、同じ日にパートナーと死別していない83,588人を対照群とした。その結果、パートナーの死亡30日以内に心筋梗塞または脳卒中を発症したのは、死別群50人(0.16%)、対照群67人(0.08%)で、死別群の心臓血管イベント発生のリスクは対照群の2倍を超えていた。しかし、31日以降、リスクは低下し、90日を過ぎると両群に差はなくなっていた。

したがって、パートナーの死後30日以内は心臓血管病リスクが上昇することが示され、これは急激な悲しみに伴う有害な生理学的反応によるものと考えられる。急性心臓血管イベントに関連する心理社会的要因への理解を深めることが、予防と診療の改善につながることを示唆された。

出典：Journal of American Medical Association. Internal Medicine. 2014; 174(4): 598-605